

今後の富山県技術専門学院見直しの考え方、検討・実施時期について（案）

1 考え方

- 県立職業能力開発校として設置されている富山県技術専門学院（以下「技術専門学院」という。）の訓練科やカリキュラムの見直しについては、これまで不定期に実施されてきた。（見直し：H25～27（前回）、H19（前々回 大規模な見直し））
- しかしながら、近年の入校率や就職率の低下といった傾向に鑑みると、技術専門学院が、県内企業や県内労働者に真に必要とされ、求められる存在となるためには、時代や経済社会の変化、すなわち、産業構造や技術革新の動向、県内産業のニーズを敏感に捉え、サービスを受ける企業や労働者（学卒者、離転職者、在職者）のニーズに基づき、外部有識者の意見も聞きながら、不断に見直されるべきものである。
- こうした観点から、企業や労働者に対し、技術専門学院の訓練科やカリキュラムに関する調査を定期的の実施し、ニーズを詳細に把握することで、企業や労働者に真に必要とされ、求められる職業訓練となるよう、PDCAサイクルを回しながら、定期的に見直しを実施していく。

2 見直しの検討・実施時期

- 5年に1度改訂される富山県職業能力開発計画（以下「計画」という。）、技術専門学院の訓練実施状況について蓄積されたデータ（入校率、就職率等）、企業や労働者への訓練ニーズ調査に基づき、概ね5年に1度、富山県技術専門学院見直し検討部会において、各訓練科やカリキュラムの見直しについて議論・検討し、親会である富山県職業能力開発審議会（以下「審議会」という。）に報告する。
- 見直しに当たって実施する企業や労働者への訓練ニーズ調査については、計画策定時の職業能力開発ニーズ調査と統合した上で、訓練ニーズ調査にもウェイトを置いて、一体的に実施する。
- なお、審議会については、計画の進捗状況を議論・検討するため、年に1回程度開催しているが、その際にも、技術専門学院の各訓練科の直近の入校率、就職率をデータとして提供し、各訓練科のあり方や今後の見直し・改善点について、ご意見をいただく。